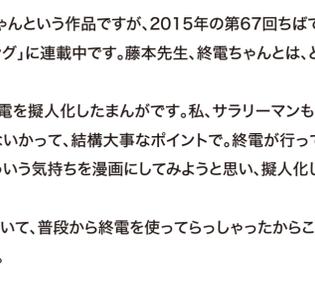


藤本正二トークショー

第5回全国漫画家大会議の2日目。ステージイベントの最後を飾ったのは、週刊モーニングに「終電ちゃん」を連載中の藤本正二先生と、モーニング編集部員の鍵田真在哉さんのトークショー。悲喜こもごもの日常の中で、終電の揺れ動く心をどう捉えるのか。サラリーマン漫画家ならではの視点や経験、そして終電ちゃんの製作秘話について語りました。

出演／藤本正二先生・鍵田真在哉さん(講談社 モーニング編集部)
司会・進行 佐々木彩乃



佐々木 まずは、終電ちゃんという作品ですが、2015年の第67回ちびっく賞入選作品ということで、現在「週刊モーニング」に連載中です。藤本先生、終電ちゃんとは、どういふまんがなのかお話しただけですか？

藤本 終電ちゃんは、終電を擬人化したまんがです。私、サラリーマンもやってるんですけど、終電に間に合うか間に合わないかって、結構大事なポイントで、終電が行ってしまうとつらいとか終電が来たなら嬉しいとか、そういう気持ちを漫画にしてみようと思い、擬人化しました。

佐々木 お仕事をされていて、普段から終電を使ってらっしゃったからこそこのアイデアですね。今も終電に乗ったりしますか。

藤本 乗りますね。
鍵田 打ち合わせをしていると長引いて、終電ギリギリになったりとかはあります。

佐々木 内容によってもかかる時間が変わってくると思いますが、打ち合わせでどういふお話をされるんですか。

鍵田 だいたい講談社の編集部で打ち合わせをみんなでやるんですけど、次回どんな話にしようかとか、この路線が廃線になるとか、新しい路線ができるとか、時事ネタを含めた話ですね。

藤本 終電ちゃんは一路線に一人必ずいるので、どういふキャラクターにしましょうかとか、何をテーマにしようかとか。一話完結の読みきりの形で作っていますので、テーマやストーリーが毎回違うのでその辺りも話し合いながら作っています。

佐々木 単行本をお持ちいただいております。こういうキャラクターが一路線に一人いるということですね。

(スクリーンに画像)
可愛いですね。この子は1巻の中央線の終電ちゃんですね。キャラクターは、どういった時に思いついたんですか？

藤本 路線ごとに考え方が変わったりします。例えば、中央線は私の実家がある路線なのもあって主な舞台にしたんですけど、最後の乗客を乗せるために遅れたりするんですね。それでどういふ気持ちで走ってるんだらうって思った時に、駅員の格好してるかなとか、そういう感じで最初にぼっと出てきたんです。2巻の表紙の山手線はコスロリみたいな格好をしています。原宿のイメージですね。3巻の表紙の小田急線は、温泉ですね。箱根に通じているので。

佐々木 だから和装なんですね。
藤本 女将さんのイメージですね。

最新6巻の表紙にもなっている大阪環状線は、大阪のイメージ詰め込んでみました。ハリセンを持ってたり、関西弁を喋っていたり、コテコテの感じで描いてみました。

佐々木 ハリセンでお尻をたたくんですね。早く乗れ！って。見た目もかわいいですけど、中身がみんな個性的で、一人一人キャラクターが立っている。性格とか、そういう設定を思いつくのはどんな時ですか。

藤本 路線の特色を出したいなあというのが頭にあって。山手線はかなり混雑するのできつめの性格になりそうだなあとか。そういう感じですね。

佐々木 1巻の中央線の終電ちゃんは姉御みたいな感じで、お客さんを「早く乗れ！」って叱ったりするキャラクターですけど、中央線はやっぱりそういうイメージだったんですか。

藤本 そうですね。中央線を最初に書いた頃は、まだいろんな路線があるっていうことを考えてなかったんで、終電をキャラクターにしたこんな感じかなというのが一番よく出てくると思います。

佐々木 酔っ払いがリアルに描かれていて、駅でぶっ倒れている姿がそのまま再現されているんですね。それを論ずるというか叱るというか。そういうキャラクターなんですね。終電ちゃん同士も仲が良かったりして、スマートフォンを持ってるといふんですね。会話したり喧嘩したり。山手線と中央線がバトルしていたりするんですけど、接続の問題を考えてそういう風にしてるんですか。

藤本 そうですね。接続をとるとどうしてもダイヤから遅れてしまうので。遅れたくないと思いついて接続をとってる気持ちを想像してキャラクターに乗せたりしていますね。

(画像)
佐々木 スマートフォンを持って、喋りながら終電を動かすんですけど。これは山手線ちゃんですね。右が中央線ちゃんで、「あのじやじゃ馬め！」とか言ったりするんですよ。小田急線の終電ちゃんとは仲良しなんですか。

藤本 きつめの子が2人続いたので、小田急線の終電ちゃんはおっとりした感じにしようと思えました。

佐々木 印象的だったのが、電車の中で食べ物配っていることです。小田急線の時のお話にも出てきていますが、また食べ物おいしいそうなんです。

(画像)
佐々木 そうそうこれこれ！これは鮭とばですね。実際には、小田急線では配ってはいないと思うんですけど。これは猫を引き寄せるための鮭とば作戦ですね。

ここからもう少し内容を踏み込んで行きましょう。6巻まで発売されていますが、先生と鍵田さんのおすめイチオシ回を伺ってきたいんですが。

藤本 やっぱり、一番印象に残っているのは最初に描いた話ですね。モーニングの新人賞で入選をいただいて、それがそのまま連載になったんです。その読み切りの最初のシーンですね。

(画像)
終電が終電に乗るなって言ってるこの感じですね。「明日はもっと早い時間に帰って約束しな！」って。これを書きたかったんで、一番思入れの強いシーンです。

佐々木 言葉はきつそうに聞こえますが、終電ちゃんのおいやりというか。

藤本 思いやりが入っている感じですね。

佐々木 それがお客さんたちにも伝わっている。鍵田さんには？

鍵田 終電ちゃんのおもしろさって、乗った人を中心に帰らせないといけないう職務がある一方で、乗ってほしくないと思ってる場所ですね。乗客と仲良くしたい。仲良くなって終電に乗るようにしたい。本当は仲良くしたいんだけど仲良くできない、そういう切なさを持っていて、それがよく出ているのがこのクリスマスの回です。大雪が降って、車両が動かないんじゃないかっていうくらいになるんですけど、その時に乗客がヒステリックになる。それを終電ちゃんがもろくらうシーンです。雪玉をぶつけられて。主に山手線が動かなくなりますが、こども演出が効いてるんですね。「ラーメンおいしい」とか言ったら夢だった、みたいな。

(画像)
いつもは乗客が「送ってくれてありがとう」って言うんですけど、こういう時になると疫病神扱いをされるんです。現実起きてることをうまくまんがに落とし込んで、終電ちゃんのキャラクター性がよく出ているシーンだと思うんです。

佐々木 このマフラー持ってる人の表情がねえ……。

鍵田 この人、序盤にクリスマスプレゼントだと言ってマフラーを中央線にくれようとした人なんです。その人がこうなっちゃうんだ……みたいな。

佐々木 接続でいられがちだと、好意を持っていたのにこういう表情になるっていう、人間の内側がよく描かれています。心が痛いですよ。1巻にあるそうなので、読んでいない方は読んでみてください。

ちなみに私が泣いた回は、廃線になっちゃう三江線のお話で、

(画像)
廃線になったら、終電ちゃんはどくなっちゃうのっていうお話です。運転士さんがありがとうって話をした後で、ふっと姿を消すシーンがもう……。私、カフェで読んでたんですけど、1人で泣いちゃって……。人間ドラマが描かれていて、わかるわかるっていうところや涙を誘うシーンや、あ、人探しも5巻にありましたね。

「ウォーリーをさがせ！」みたいな、ちょっとしたゲームも含まれていたり。やってみるとなかなか見つからないんですよ。

(画像)
鍵田 遊び心が込められてます。描くのは大変だったと思います。

藤本 大変でした。

鍵田 無茶振りしてしまってますみません(笑)

佐々木 これは打ち合わせの中で、遊びを入れましょうみたいな提案があった？

鍵田 そうですね。話し合いの中で出てきますね。せつかなんですけどいいように。というふうに、結構7人ぐらいの意見を隠して、隠れキャラを何人か入れて。やかに難し過ぎるように隠すか、結構頭を使いました。

佐々木 これは時間的にどのくらいかかるとですか？

藤本 だいたい3日ぐらいかかりました。実際の整備工場を舞台にしているんですけど、その地図を見ながら描いていました。

佐々木 実際にある整備工場なんですか。

藤本 はい。京成電鉄の。

鍵田 この屋根の上にいる人とか好きですね。遊び心があって。

佐々木 そうですね。さいつい目がいっちゃう。この整備工場もそうですが、実在する場所もよく描かれています。たくさんいろんなまちへ行って取材されていると思うんですが一番印象深かったところは？

藤本 三江線ですね。広島から入って島根に通じる路線なんですけど、取材をしたのは廃線になる前だったので、実際に島根からスタートして広島まで乗って写真を撮ったりして。「ここ、もう廃線になってしまうんだ」と思いついて、駅にあるノートに自分の名前を書いたりしていると、だんだんしみみりしてくるんですね。それが楽しかったですし、記憶に残っています。

佐々木 鍵田さんは？

鍵田 取材ってすごい大事です。頭の中で考えても絶対に思いつかないだらうなってことが結構たくさんあって。

藤本 ありますね。現実起きたことをまんがの中に入れて、普通だったら考えつかないようなシーンが入ってきたりするんです。

(画像)
佐々木 あ、これね！

鍵田 これ、クーラーが水漏れしてるんです。これは岡山のスナックなんですけど、もともと一緒に担当していた編集部員が週刊誌の部署にいた人で、地方に取材する時はスナックに行くって聞いて。人が集まっているからお話が聞きやすい、取材にいいんだらうって、実際に行ってみたんです。本当にこれ、お店そのまんま使わせていただいたんですが、クーラーが水漏れしてました。

藤本 お客さんがびちゃびちゃになって(笑)

鍵田 すごく光景だなあと。ある種、ストーリー的にまったく見えないシーンなんですけど、こういうのが入るとリアリティが増すというか、本当に終電ちゃんいるんだらうなっていう実感が増すシーンだと思います。今回は実際に高知を取材しながらイベントに参加させていただいているんですけど。

佐々木 高知の終電ちゃんも構想中ということで、今日ここでちょっと描いていただくことはできますか？

藤本 はい。

佐々木 ありがとうございます！うれしい〜。昨日、写真を撮られていたということで、今、頭の中にいる終電ちゃんをぜひ。描いたものを出していただけますか？描いているところを見せていただけますか？

藤本 せつかなので描いている、生々しいところを。ライブ感があっていいですよ？

(描いている手元を、ライブカメラ映像)
これは、取材しながら思いついたんです。

佐々木 藤本先生と鍵田さんが出会ったのは、ちびっく賞の選考会ですか？

鍵田 コミティアという同人誌即売会で出張編集部をやっているんです。いろんな方に同人誌や原稿を持ち込んでいただくって拝見するんですけど、それに來られて、先ほどの元担当があとと聞いています。その時、同人誌もすでに終電ちゃんだったそう。すでにクリスマス回の構想もあって、トントントンと連載になっていった感じですね。

あ。とか言ってる間に。

(スクリーンを見る)
かわいいですよ？

佐々木 かわいい。セリフに土佐弁の「ぜよ」が入りましたね。

鍵田 この子、目が開いてないんですよ？

藤本 坂本龍馬をイメージして、クセ毛で、酔っ払って目が開かない感じですね。

佐々木 終電ちゃん、お酒飲むから酔っ払うんですね。結構お酒出てきますよね？

藤本 出てきますね。お客さんとお洋服は今から終電ちゃんとかいいます。

佐々木 かわいい。首から下のお洋服は今からという感じですか？

藤本 着物になるのかな？龍馬っぽく。

佐々木 なるほどなるほど。龍馬さんは刀を差してるお写真とありますけど。終電ちゃんは、各自持っているアイテムがあるんですね？読んでると、こういう部品があるんだって勉強になるんですよ。中央線の終電ちゃんは後ろに勾配標を背負っていて、東海道新幹線の終電ちゃんはパンタグラフですね。こういうアイテムあるんだらうって知ると、電車に乗るのがより楽しくなるんですよ。お洋服と、この子が持つものを楽しみにしてお待ちしたいと思います。

キャラクターとしてはどういふ性格の子になりそうですか？

藤本 やっぱ、酔っ払い、酔っ払いを電車に押し込む力が強いかな。

佐々木 酔っ払いが酔っ払いを電車に押し込む？

鍵田 どうなんですか？高知=ベロベロでいいの？ってのもあると思うんですけど。お酒でなんでもかきかきする方？お酒みんな飲みますよね？あ、すごい顔ですね。大丈夫ですか。お酒でお客様をおもてなしするので、昨日より飲みますけど、昨日より洗いを受けたらと思いついて、菊の花や穴の開いたおもちなどあるので、そういうところもぜひ取り上げていただきたいと思います。あと、おいしいお料理もありますので。

この後、終電には乗られる予定ですか？

藤本 はい。今晚、土佐電の終電に。

佐々木 最後は真っ暗になりますけど。

藤本 ちょっと不安なんです。

鍵田 実際、終電に乗ってみるとわかることも多いですね。一度、長崎県の松浦鉄道に乗ったら終着駅に日本最西端って書いてあって、降りる人も少なくです。ここベタで真っ黒にしてあるんですが、

(画像)
實際こうだったんです。

佐々木 人もいないし、電灯も点けてない。

鍵田 結構怖かったんですけど、実際行ってみるといろいろわかるなって。

藤本 ちょっと離れたところにタクシーが停まっているんですよ。終電を乗り過ごしちゃった人に乗せるタクシーが実際に停まっていて、それで帰れたーみたいな。

佐々木 今までキャラクターが経験していることは、実際には先生が経験されたことなんですか。

藤本 これはそうですね。

鍵田 このキャラクターは、記者なんですけど。帰らないといけないうに寝過ごしちゃって終着駅に着いてしまっ、しかも真っ暗でこのリアクションです。

(画像)
なぜかラーメンを渡されて。

佐々木 そうなんです。実際にこうガクンとなったわけではなく。

藤本 誇張してるとは思います(笑)

佐々木 今日終電に乗って、高知の最終地点はどんなもんかを経験していただい。

藤本 さっき、最終はごめん駅で、ローソンと一緒に帰るって聞いて。

佐々木 そうなんです。なかなか他県では見ないですけど。降りるとローソンっていう。

藤本 楽しみにしています。

佐々木 普段サラリーマンとしてお仕事をしながらまんがを描いてらっしゃるということで、大変な瞬間、うれしい瞬間があると思うのですが。

藤本 サラリーマンをしながらなので、基本的に土日に作画をするんですけど、今はもうわざわざGペンを握って描かなくても、パソコンで描けてしまいますから。なので、アシスタントさんに家に来てもらう必要がなく、インターネットを通じてパソコン越しと一緒に作画する形がとれているので、働きながらできなくて描きやすいですね。

佐々木 そうなんです。まんがが家さんといえば、家に集まって、みんなでせつせつと描いているイメージですか。

藤本 最近はパソコンでできるので、LINE使ってファイル送ってちょっと作業してもらってまた送り返してもらって、2〜3人のアシスタントさんと一緒にやっています。それで月1、20ページがちゃんとできるので、時代に助けられています。

佐々木 昔だと紙に描いて……ということだと思いますか？

藤本 まだまだそういうやり方もあるんですけど、僕の場合はそっちの方が合ってたっていう話です。

鍵田 そうはいつでも大変だと思います。休みの日に描くってことは、休まないってことなので。

佐々木 そうですね。

鍵田 あとは働きながら描かれているということもあって、「終電ちゃん」には働くことに対するテーマがふんだんに盛り込まれています。その辺りはかなり見ごたえがあるかと思っています。この回は新入社員ですね。

(画像)
デスクがあって、電話があって、「あれ？俺ずっとここで同じような仕事するのか？」って、怖くなってしまっ。それってどうすればいいんだらうっていうのを、終電ちゃんを通して学んでいくという話。この時は「マンネリ化が怖い」という話なんですけど、いや、毎日違うでしょう。いろんな人がいるし、いろんなトラブルとかいいこととかあつたりする中で、私もやってるんだし、っていうことを終電ちゃんが語っていくんです。藤本さんのサラリーマンとしての実感があつてこそ出せるものかな。

藤本 すごく描きやすかったです。

佐々木 実感としてあるから。

鍵田 実際いろいろなんですもんね。そういう人が。

佐々木 まさに今、春から新入社員として働く人もいっぱいいらっしゃいますから。そういう方にぜひ読んでいただいて、同じような気持ちになったらこの中央線ちゃんのお話を思い出してほしい、そんな回でした。

まだまだ聞きたいことがあるんですけど、お時間となりましたので、今日来てくださったお客様にメッセージをお願いします。

藤本 終電ちゃんは、キャラクターはかわいい感じで描いているんですけど、内容は働いている方に向けたメッセージを込めているつもりです。大人向けのお話のような要素がたくさん入っているので、楽しんでいただけたらと思います。

鍵田 路線だけでなく、自分自身も出てきますので、自分に身近な路線が出た時に喜んでいただけるみたいなことでもあって。僕らも反応見ているので、この路線を出してほしいと大声で言っていたけれど実際に出るっていうことでもあります。そういう楽しみ方もあるかと思っていますので、今後とも楽しみにしていただければと思います。

佐々木 それは声をあげていきましょう。まず、土佐電は描いていただいたので、出していただきたいです。高知にはJRもありますので、そちらもぜひ取り上げていただければと思います。お時間となりましたのでここで別れとなります。

本日は誠にありがとうございました。